

理事長コラム

10周年事業を終えて…

就労移行支援 すたあと
素敵なイベント

就労継続B型 ここに

皆を笑顔に! ここに市

10周年記念事業報告

居宅支援

かたつむり・ひまわり

仲間自治会

国会請願署名

新しい仕事に、集団に…

挑戦! チャレンジ! の10ヶ月

こっから生活活動部門の1年を振り返って

生活介護

紙すき班紹介

こっからの商品が買えるお店

魚創作料理「花しば」

編集後記



▲新しい仲間を交えてハイ! チーズ!

Column

10周年記念事業を終えて…

社会福祉法人こぶしの会 理事長 藤井 正紀

1月29日の記念式典をもって、こぶしの会の10周年記念行事がすべて終わり、少しほっとしています。しかしこれからのことを思うと複雑な気持ちになります。というのも、新しい障害者総合支援法案が平成25年4月に施行というものの、先日発表されたものは自立支援法の焼き直しで、障害者権利条約や自立支援法違憲訴訟の基本合意から大きく外れ、原告団の小山富士夫氏は「約束がちがう」と国に怒りの声を上げています。

障害者問題では国の制度（法律）が重要で、この新しい法律が今後の障害者の就職や経済生活、年金や暮らしの問題に大きな影響を与えるだけに、障害者の立場に立ったものになるよう、我々は今後とも運動を続けていかななくてはなりません。

さてこぶしの会のあり方ですが、いろんなことを考えなければなりません。こっから・ここに・すたあとでの日中活動は、仕事、就職、工賃アップのために努力してきましたが、今後これらが大幅に進むかといえばそうではありません。それどころか年齢の進行とともに仕事以外の課題、仕事の規則やルール問題、小遣い管理や買い物・趣味、健康問題、他人との交流や自分探し、休日の過ごし方などが大きな課題となるでしょう。ヘルパーやケアホームや日中一時預かり等の居宅事業でも、そのニーズは増え、その内容もただ預かって夕食の世話をするとかみんなで共同生活するだけでなく夜間や休日の過ごし方を充実させ、豊かな生活を保障していくことが問われることになるでしょう。

こぶしの会でもこれらの状況に対応する努力を行いますが、職員だけが努力するというのは少し違うのではと思います。というのは、そのような立場は、

障害者は常にサービスを要求し受ける側、職員はサービスを与える側という一方通行のシステムになっています。しかし、こぶしの会のこれまでの経験からみても仲間や集団での粘り強い取組みで、協力しあったり、援助する障害者を多く見てきました。サービスというものも決して一方通行ではなく、相互通行もあるのです。またそのように他の障害者の援助をする障害者の表情は明るく、人間的な援助をしてくれていることが多いのです。

障害者とその家族の関係でも同じことが言えるのではないのでしょうか。家庭のなかでの障害者は常に世話を受ける側、また親と子供という一方通行的な関係が強いとも考えられます。ここにも相互通行的な考えを持ち込むことが必要なのではと思います。複数の家族同士の関係を持ち交流を深めてみてはどうなのか？障害を持つ子どもを見直しては？

こぶしの会と障害者、こぶしの会と家族、こぶしの会と職員などの関係がそれぞれ一方通行の関係からお互いの相互通行の関係も作り上げていく、そしてお互いに楽しいことを共有してみる、経験を交流してみる、時には小旅行とか、こぶしの会やこっからでの楽しい企画を計画してみるなどいろいろやれることはありそうです。

新しい法律への不安や不信感、またはそれへの期待が揺れ惑う中、現実の生活や暮らしにしっかりと根を下ろし、障害を持つ人たちとの新たな関係をつくろうではありませんか。それがこぶしの会の中での「未来作り」になるのではと思います。

Column

「素敵なイベント」



ある会社で頑張っていた仲間が、事情により退職することになりました。また、新しい目標に挑戦するために「すたあと」に一度戻ってきました。すたあとの仲間は、休日のイベントなどで仲良くなっていたので、大歓迎でした。このように、「出たり入ったり」「行ったり来たり」が出来るからこそ、色々なことに「挑戦」できるのだと思います。

そんな彼が、素敵なイベントを思いつきました。『一人暮らしの仲間の家に行って、仲間だけでご飯を作ってお酒を飲みたい』ということです。ずいぶん前から、「一人暮らしの仲間が調理を覚えられるようなメニューにしよう。」「野菜がいっぱい食べられるようにしよう」と智恵を絞り、出来上がったのが、「皿うどん」「ギョウザ」「ホイコーロー」です。

買い出しも、お金の計算も、ゼーンぶ仲間だけで行いました。とても時間がかかったけれど、その分、おいしさも楽しさも飛び切りだったということでした。

もう、次の企画も考え中だそうです。

「皆を笑顔に！ここに市」



毎週水曜日に開催しているここに市。少しずつ地域に定着し、常連さんもいらっしやるようになりました。最近では電話で野菜やお米などの予約を受け付け、近隣へは無料で配達するサービスも始めました。お客様からは「毎週水曜日が楽しみ」とか、「寒くて買い物に行くのが大変やから、配達してもらえて助かる」とおっしゃって頂いています。

ここに市の魅力は、農家の方が丹精込めて育てた新鮮な野菜やお米を安く販売していること。農家の方から直接仕入れているのですが、少し作りすぎて消費しきれず、困っているという野菜もいただくようにしています。無農薬・減農薬で作っておられるので、商品としては最高なものです。今までは処分していた野菜が、お客様からは美味しいと喜ばれ、かつ現金収入にもなるので、農家の方も励みになっているようで、「私の生きがいになってるんやで!」とおっしゃる方もいます。

仲間達も、接客が得意で店頭で活躍する方、裏で黙々と精米作業に取り組む方、苦手なこともがんばっている方など、各々の持ち場で活躍しています。お客様から励ましの言葉や差し入れをいただくこともあり、そんな時はとてもうれしそうにされています。

「ここに市」は、毎週水曜日10時から15時開催です。皆様のご来店をお待ちしています。

※野菜やお米の配達承ります(主に水曜日)。近隣の方は無料。
お米は郵送も可(送料はご負担下さい)。
お問い合わせは、0742-31-2444まで

「社会福祉法人こぶしの会」 10周年記念事業報告

創立10周年記念祝賀会 2012.1.29



1月29日に社会福祉法人こぶしの会の創立10周年記念祝賀会が開かれました。

奈良ロイヤルホテルを会場に仲間、家族、法人関係者を中心に招待の方を含め160名の参加となりました。

これまで、節目の式典やイベントはこっからや福祉センターをお借りして全くの手づくりでやるのが「こぶしの会流」ではありますが今回は約1年間に及ぶ記念事業の締めくくりとして最初で最後?の豪華版となりました。

第一部は記念式典。フルートアンサンブルクラブ“そよかぜ”さんの演奏とこっから聖歌隊?による私たちのテーマソング「BELIEVE」の合唱で開幕。

理事長挨拶に始まって県と市からのご来賓ご祝辞仲間自治会長と家族会会長挨拶で一部は爾々と終了。

第二部は交流会後援会会長の挨拶と乾杯でスタートしここからは仲間たちもリラックス。

おいしい食事を、いつものごとくお腹いっぱい詰り込みながら楽しく時間が過ぎていきました。

もちろん食べるだけではございません。進行役の担当や代表あいさつ、作業所時代やこっからでの10年間の思い出を発表するなど要所所で仲間が活躍。

他の法人・事業所や学校、地域の方や関係機関、後援会員さん、元職員だった方…当日駆けつけてくださった多くの方々から暖かいお言葉や激励のメッセージをいただき、改めて多くの人たちに支えられて今があることを実感することが出来ました。

また前後半の2回に渡って上映されたスライド「足跡&活動編」と「つながり&笑顔編」、担当職員渾身の力作が巨大スクリーンに。

6軒長屋の一室から歩みだした25年前、何もない空き地に「こっから」が建設されていく様子、そして何よりも仲間の笑顔…。

そんなスピーチとスライドを中心とした派手な演出は何もない会でしたが、みなさんとのつながりをさらに深めることができた1日となりました。

これまで「こぶしの会」の活動にご理解とご協力をいただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

翌日から、新しい10年に向かって歩んでおります。これからも仲間たちへの応援をよろしく願っています。

マッケンジー・ソープの世界展

2011.4.6~17



「マッケンジー・ソープの世界展」を開催しました。来場者数が1300名。本当にたくさんの方にお越しいただきありがとうございました。

10周年記念こっから祭

2011.11.6



法人設立10周年の感謝祭と被災地復興応援イベントという2大テーマを掲げてのこっから祭を開催しました。生憎のお天気でしたが1000名を超える方々が来場して下さいました。

10周年記念旅行

10周年記念旅行は、班別一泊旅行でそれぞれの班が仲間の希望を聞きながら自由に企画しました。どの班もニコニコの大満足の旅でした。



ひまわり・かたつむり

この度、ひまわりの入居者さんが退居されることとなり、お別れ会をしました。寂しくなりますが、また遊びに来てくださいね。



現在、かたつむりを利用されていた2名の方がひまわりの体験入居中です。かたつむりも寂しくなりますが、落ち着いた頃にみんなでひまわりに遊びに行けたらと思います。



利用者さんからのメッセージ

今回は、ケアホームで生活をされている方に日々の暮らしについてお話をきかせていただきました。

☆ひまわりの様子☆

洗濯物たため、洗濯物洗いきし、ご飯の準備・片付け、料理作り、米炊き洗い、そうじ、お風呂わかし、布団干し、ATMのお引き出し(平日)などしてます。とてもひまわりいそがしくて楽しく暮らしてます。ひまわりの仲間やスタッフや学生さんの皆と生活したり暮らしてます。金土は家へ帰ってます。毎週入金もしてます。月1回チャージ(イコカカード)もしてます。週末買い物自分で行ってます。自分でお風呂とシャワーしたり浴びたり入ってます。

な か ま 自 治 会

国会請願署名活動

～ローカル駅編～



仲間自治会では、毎年恒例の国会請願署名に取り組みました。

今年は、私たちの運動を近くに住民たちにも知ってほしいということで、帯解・京終を中心に少しローカルな駅で街頭署名に取り組みました。初めての無人駅…「JR帯解駅」(1時間にだいたい上下とも2本ずつの路線です。)自治会の時間帯に停まるのは上下合わせて2本。1本目の電車が着いた瞬間…。電車を待つ人、降りる人に「自立支援法廃止の署名でーす!」「署名にご協力お願いしまーす!」と精一杯声をかけます。すると、通る人の多くの方が私たちの話を足を止めて聞いて、署名をしてくださりました!乗客の方だけではなく、お迎えに来られていた方、犬の散歩をしておられた方なども…。結果、20分で17筆、608円のご協力をいただきました。都会(大きな駅)では、なかなか立ち止まってもらえないことが多い街頭署名、ローカル線では道行く人の優しさに触れ合うことが出来ました。

この日の署名を励みに、京終・近鉄奈良・JR郡山で今年は頑張りました。仲間自治会発信のがんばるDayは2月末現在、計3ヶ所で行われ、署名は67筆・カンパ2,728円が集まりました。寒い日もありましたが道行く人たちの沢山のご協力に、暖かい気持ちになりました。ご協力ありがとうございました。

「新しい仕事に、集団に… 挑戦！チャレンジ！の10ヶ月」

～こっから生産活動部門（パン・豆腐・喫茶・クッキー班）の 1年を振り返って～

2011年度はパン工房、喫茶が10年目に突入、豆腐工房も5年の節を迎えました。今年の取り組みの大きな特徴は、下請け作業班をなくし、6月からクッキー班を立ち上げたこと。あわせて、作業集団の再編を行ったことです。パン工房を除いて、開所当時から同じ班で10年選手だった仲間が、幾人が新たな授産に挑戦しました。

仲間2人職員1人という小さな集団（喫茶）で、長年マイペースに仕事をしてきたMさんは豆腐工房に。当初はみんなと息を合わせて仕事をするに慣れず、大集団に居場所も見つけれず、「喫茶に帰りたいです～」と涙ぐんでいました。が、持ち前の器用さで次々仕事を覚え、仲間からも認められ、今は彼女の大きな掛け声が工房に響いています。

Hさんも、10年慣れ親しんだ紙漉き班から、たった一人クッキー班にやってきました。誰かの世話をしないと心が落ち着かなかったHさんも、赤いチェックのサロンエプロンをキリリと結び、包丁を使って「くるみ刻み」にチャレンジ。新しい仕事に自信をつけ、班異動と同時に取り組んだ路線バスの自力通所もできるようになりました。大好きなF君の世話を焼きながら、遊ばれながら毎日本当に楽しそうに通ってきます。

また、活動班で働く力の根っこをはぐくんできた仲間たちや、感覚こだわりの強い自閉の仲間たちも、クッキー班に異動してきました。そんな比較的障害の重い仲間たちが、今、クッキー丸めにはまり、楽しみ、生産の中心を担っています。大嫌いだっただ帽子やマスクをつけ、何度も手を洗うことも、待つことも、「ダメ」の続く指示も受け入れて。ちょっと頑張りすぎ？…という一抹の不安を感じながらも、職員の予想を超える「頑張り」に、障害の重い人たちにとっての労働の意味を改めて問い直しています。

一方、新たな挑戦から、今まで見えなかった課題がみえてきたり、高い力を持ちながら、安定して仕事に向かえない仲間も

おり、こっからに、何を求めているのか、仕事以外の支援のあり方にも視野を広げる必要性を感じています。

美味しいパンを、豆腐を、クッキーを一生懸命つくる。みんなと一緒に頑張っつくる。そんな毎日の積み重ねが、青年・成人期を生きる彼らの自信と誇りにつながっています。



編集後記

怒涛の10周年記念事業YEARを何とか乗り切り、ほっとする間もなく新年度が始まりました。

法人全体では、今年度7名の新しい仲間が増えました。

社会人1年生として緊張と不安の中、早くも持ち前の“らしさ”を発揮し、それぞれの事業所にフレッシュな風を吹かせてくれています。法人としても、10年後、20年後に向けての

組織づくりのための人事や、また誰もが住みよい地域づくりという理念の実現をめざし、教育機関との連携で子育てに関わる新規事業も計画されるなど、11年目もチャレンジの年となりそうです。

(古木 一夫)

昨年6月に大きく班体制が変わり、仲間8名のうち5名が紙すき班に新しく所属することになりました。新しい仲間にあわっても、これまでの質を落とさず、良い名刺やハガキを作ろう!ということで、毎日仕事に励んでいます。

紙すき班では仕事を基本的な作業としながらも、体を動かしたり、調理をする“取り組み”の時間も大切にしています。また、秋には一泊旅行があったのですが、ばらばらに見えていた仲間も、素晴らしいチームワークを発揮し、班としてのまとまりを再確認しました。



今、この記事を書いている時間—

うしろではニコニコと体をゆらしながら紙ちぎりをするA君。みんなのコップをせっせと流し台へ運んでくれるBさん。「仕事一本」のCさん。こまか〜く紙を切ってくれるD君。そして、『今日は、こんなことあって…』と教えにきてくれるEさん…。

これからも皆で力を合わせて、1枚1枚丁寧に紙づくりをしていきたいと思います。



食べられる
7
こっからの商品が 7 お店を紹介します

魚創作料理「花しば」



ご夫婦



外観



マグロのカツとカキフライ定食



ランチ回数券 (800円)

住 所 / 〒630-8266 奈良市花芝町 8-2
 ※近鉄奈良駅から徒歩約3分。東向北商店街を通り約200m進む。
 電 話 / 0742-26-6310
 営業時間 / ランチタイム 11:30~14:00 (ラストオーダー13:30)
 ランチタイムは月~土 お得な回数券も有り
 ナイトタイム 18:00~24:00 (ラストオーダー23:30)
 定 休 日 / 不定休

「花しば」さんとは、こっからのおとうふをいち早くお店のメニューに取り入れていただいたのがご縁の始まり。ご実家が創業90年という魚屋さんで、奈良で魚が美味しい居酒屋さんとして有名です。冬は鍋にすくいのおとうふを入れて出されているそうですが、おとうふだけおかわりされる方もあるそうです。暖かくなってくると冷奴がよくでるとのこと。(ちなみにおとうふは夜のメニューのみです)。

またランチを始められることになった際、デザートにこっからのパウンドケーキを付けたいとご注文いただきました。その日に入った旬の魚を炭火で焼いた、焼き魚定食他各種がデザートとコーヒーが付いて800円からあり、こちらも大好評です。